

7章 性別から見た開業者

1節 はじめに

前章までの分析では、性別の影響はダミー変数の作用で観察してきた。この方法の場合、サンプル全体つまり男女全体を同一の論理で説明し、そのもとで性別による差異を分析することになる。しかし、本調査の対象者に占める女性の割合は小さいので、全体の動向が男性の動向に大きく左右される。そのため分析は、男性の行動を基本とし、女性の行動はそれとどの程度異なっているのかを見ることになる。つまり、男性とは異なる女性固有の行動特性があっても、それが見出しにくくなるように思われる。

そこでここでは、男性と女性を別の集団に区分し、それぞれを同一の枠組みで分析し、両者の違いを見ていくことにする。

2節 分析対象の男女比

まず、男女の構成比について見ておこう。本調査研究では3つの調査を実施したが、調査によってその対象者や調査内容が異なっている。その中で、非開業者調査は他の調査より設問数がかかなり少ない。そこでここでは、この調査を除外して残りの2つの調査、つまり45歳以上で開業し現在までその事業を継続している人を対象にした「開業継続者調査」と、開業したが現在までにその事業をやめた人を対象にした「非継続開業者調査」に限定して分析を行う。なお、この2つの調査は合わせて「開業者調査」とも呼べる。

この2つの調査の、男女の人数とその構成比を示したのが、図表7-1である。5章や6章の分析で指摘したが、全体の女性構成比はそれほど高くないが、非継続開業者調査ではそれがかなり高くなっている。

図表7-1 男女の構成

	男性	女性	計
開業継続者調査	941	59	1000
	94.1%	5.9%	100.0%
非継続開業者調査	420	80	500
	84.0%	16.0%	100.0%
合計（開業者調査）	1361	139	1500
	90.7%	9.3%	100.0%

上段単位：件
下段単位：%

3 節 経験と考え方

(1) 開業前の経験

事業を開業する以前の勤務先に関わる変数などについて、男女別にそれらの割合を示したものが図表 7-2 である。開業前の勤務先で管理職以上の役職についていた割合（当時管理職以上の割合）は、女性ではかなり低くなっている。管理職についている女性の割合は現時点でも一般的に低いことを考えれば、当然の結果と言って良いだろう。またこの割合ほどの違いはないが、その事業での就業経験（斯業経験）がある人の割合も、女性は少なくなっている。

図表 7-2 開業前の企業や経験

	当時大企業の割合	当時管理職以上の割合	斯業経験ありの割合
男性	30.0%	65.0%	71.5%
女性	21.6%	23.0%	64.7%
合計	29.2%	61.1%	70.9%

これらのことは、企業内で組織のまとめ役になった経験がなく、また開業業種での就業経験もない状態で、開業に踏み切った女性が少なくないことを意味している。

(2) 開業業種

斯業経験に関連する開業業種の具体的な構成比を、男女別に示したものが図表 7-3 である。女性は「その他」がかなり多く、多様な業種に分散していることがわかる。男女の違いを見ると、男性は「専門・技術サービス業」が多くなっているが、女性は「小売業」と「教育、学習支援業」がわずかながら多くなっている。

図表 7-3 開業業種

	建設業	情報サービス業	小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	専門・技術サービス業	教育、学習支援業	その他	計
男性	5.5%	9.3%	7.5%	5.7%	8.3%	29.0%	4.6%	30.1%	100.0%
女性	2.2%	3.6%	12.9%	2.9%	5.0%	17.3%	12.2%	43.9%	100.0%
合計	5.2%	8.7%	8.0%	5.5%	8.0%	27.9%	5.3%	31.3%	100.0%

(3) 仕事に対する考え方

対立的な 2 つの「仕事に対する考え」を提示し、そのどちらにより近いかを問うた設問の結果が、図表 7-4 である。

図表 7 - 4 考え方

	A: 新しいことに挑戦し続けたい B: 伝統を守り抜きたい	A: 他人に助けられることが多い B: 他人に邪魔されることが多い	A: 計画を達成するためには努力を惜しまない B: 現実に適合するために計画の修正を恐れない	A: 失敗を恐れずに大胆に行動する B: 失敗しないように堅実に行動する
男性	2.03	2.23	2.16	2.41
女性	1.94	1.95	2.20	2.44
合計	2.02	2.20	2.16	2.41

注 スコアは、Aを1、Bを4とする4件法により、どちらにより近いかを問うた点数の平均値。

(スコア)

A: 目標は達成より挑戦することに意義がある B: 目標は着実に達成し続けることに意義がある	A: 努力すれば、もっと良い生活ができる B: 努力しても、今以上の生活は望めない	A: ハイリスク・ハイリターンを求める B: ローリスク・ローリターンを求める	A: 私は特定分野に精通したスペシャリスト B: 私は幅広い分野を理解しているゼネラリスト
2.42	2.06	2.59	2.21
2.45	2.05	2.68	2.19
2.42	2.06	2.60	2.21

男性は女性と比べると、他人には「助けられること」より「邪魔されることが多い」と考え、女性は「ハイリスク・ハイリターン」より「ローリスク・ローリターン」を求める傾向が強いことが示されている。

4 節 開業と事業展開

(1) 開業の障害

開業時は、どのような障害があったのだろうか。複数回答の結果が図表 7 - 5 である。男女の違いを見ると、男性で多くなるのが「開業資金や運転資金」で、女性で多くなっているのが「経営のノウハウ」である。

図表 7 - 5 開業の障害

(M.A.)

	開業資金や 運転資金	開業に 必要な認可	経営の ノウハウ	事業運営の 設備・場所	人材の確保	家族の 同意・理解	その他	特にない	計
男性	28.7%	12.9%	24.9%	15.9%	10.4%	15.7%	6.8%	36.8%	100.0%
女性	24.5%	11.5%	30.2%	18.0%	11.5%	14.4%	5.0%	36.0%	100.0%

女性で後者の項目の回答が多くなるのは、管理職経験のある人が少ないことを考慮すれば、納得しやすい結果である。

(2) 開業理由

事業を開業した理由に関して、調査ではいくつかの項目を示し、各項目がどの程度あて

はまるかを尋ねている。その項目ごとのあてはまり度を示すスコアの平均値を比較したものが、図表7-6である。

男性の方があてはまり度が高いのは「仕事経験を活かせるから」という項目で、これは男性が斯業経験のある人が多かったからと考えられる。逆に女性の方が高い項目は「趣味・特技を活かせるから」で、それは斯業経験のない人が多かったことと符合する結果である。なお女性では、「収入を増やしたいから」と「より高齢まで働けるから」もあてはまり度が高い項目になっている。

図表7-6 開業理由

	仕事経験を活かせるから	趣味・特技を活かせるから	社会的意義があるから	勤務先から勧められたから	勤務先以外から勧められたから	事業の成長が見込めたから	資金の障害がクリアできたから
男性	3.15	2.48	2.50	1.53	1.72	2.31	2.33
女性	2.99	2.64	2.49	1.57	1.65	2.30	2.40
合計	3.13	2.49	2.50	1.54	1.71	2.31	2.33

注 スコアは、「あてはまらない」を1、「あてはまる」を4とする4件法による点数の平均値。

(スコア)

やりがいのある事業だから	自分の意思で運営できるから	自分のペースで運営できるから	収入を増やしたいから	より高齢まで働けるから	仕事以外に注力できるから	別の働き方は選べなかったから
2.94	3.35	3.32	2.55	2.76	2.43	2.11
3.06	3.27	3.35	2.72	2.86	2.54	2.03
2.95	3.34	3.33	2.56	2.77	2.44	2.10

(3) 能力開発の方法

事業を運営していくためには、様々な知識やノウハウを獲得する能力開発が必要である。その能力開発の方法についての、複数回答の結果が図表7-7である。

図表7-7 能力開発の方法

(M.A.)

	以前の勤務先の仕事経験	以前の勤務先の集合研修	民間教育機関	業界団体等の研修	自学自習	その他	計
男性	63.3%	6.8%	7.8%	8.2%	48.5%	6.0%	100.0%
女性	59.0%	5.8%	10.8%	11.5%	55.4%	7.2%	100.0%

男女とも「以前の勤務先の仕事経験」が最も多くなっている。実務を通じた経験が能力開発が基本であることを示す結果である。男女の違いを見ると、女性で「自学自習」が多くなっていることが目を引く結果である。女性は斯業経験や管理職経験のない人が多かったので、自ら率先して自らの能力開発に努める必要があったのであろう。

(4) 事業の状態

このような形で展開してきた事業であるが、その事業は同業他社と比較して、どのような状態であったのだろうか。その結果が、図表7-8である。男女の回答の違いはあまり

ない。表の右側の列には、この回答をスコア化し、その平均値を比較した結果も示したが、そこでも違いは少ない。男女で事業状況の違いはあまりないと言えよう。

ただし当然ではあるが、男女どちらに関しても、個別の回答者は一様の状態にあるわけではなく、様々な状態に散らばっている。

図表 7 - 8 事業の状態

	かなり良い	やや良い	同程度	やや悪い	かなり悪い	計	スコア	t値
男性	4.6%	17.6%	42.5%	22.8%	12.5%	100.0%	2.79	-0.787
女性	8.6%	15.1%	40.3%	25.9%	10.1%	100.0%	2.86	
合計	5.0%	17.4%	42.3%	23.1%	12.3%	100.0%	2.80	

注 スコアは、「かなり悪い」を1、「かなり良い」を5とする5件法による点数の平均値。

5 節 多変量解析の結果

この章でも、多くの変数の影響を一度に考慮できる多変量解析を行うが、その際、既述したように男性と女性を別個に行うことにする。従属変数は、上記で最後に用いた「事業の状態」とする。その数値が大きくなると状態が良くなること示す変数である。分析により、事業の状況を良くするための手立てが明らかになることが期待される。ここで従属変数を連続数とみなし、分析手法は重回帰分析とする。説明変数は、ここまでの男女のクロス表分析で用いてきた変数であるが、「業種」と「仕事の考え方」は除外する。前章までこれらの変数については論じてきたので、煩雑さを防ぐためにそのようにする。

計測結果が図表 7 - 9 である。表は、左側の列が女性、右側が男性の結果である。表下段の行にある計測結果全体の良好さを示す統計量を見ると、女性の F 統計量の有意水準は 10% に留まっている。女性の計測結果は、全体として有意ではあるが、あまり良好ではない。件数の少なさが影響しているように思える。しかし各変数に関しては、有意性に相違があるものの、多くの変数の符号は男女で同じである。事業の状況を決定するメカニズムは、男女で大きな違いはないと考えて良いように思える。

属性の変数を見ると、男性では大企業の管理職経験者で起業経験がある場合に、事業状況が良くなっている。女性もこれらの作用は同じであるが、統計的には有意ではない。

「開業の障害」に関しては、男性では「開業資金や運転資金」「経営のノウハウ」「事業運営の設備・場所」という障害が無いことが必要である。ただし前章でも指摘したが、「開業に必要な認可」という障害があった方が事業状況が良いことになっている。この変数の符号は女性では負（-）となっているものの有意ではないので、ここで何かを指摘することは適切ではないだろう。女性に関して興味深いのは、「家族の同意・理解」が無いことが、開業の障害となる唯一の変数ということである。開業における家族の重要性は、とりわけ

女性では大きいと言える。

図表 7 - 9 多変量解析の結果

重回帰分析 (Dep : 会社の事業状況)

	女性		男性	
	B	t値	B	t値
定数	1.533**	2.739	2.070**	12.693
当時大企業ダミー	.217	.926	.148*	2.473
当時管理職ダミー	.078	.296	.171**	2.973
ス業経験ありダミー	.354	1.401	.138†	1.850
[開業の障害]				
開業資金や運転資金ダミー	-.308	-1.254	-.267**	-4.272
開業に必要な認可ダミー	-.195	-.578	.249**	3.000
経営のノウハウダミー	-.185	-.861	-.154*	-2.353
事業運営の設備・場所ダミー	-.035	-.132	-.193*	-2.499
人材の確保ダミー	.186	.591	.085	.927
家族の同意・理解ダミー	-.492†	-1.802	-.103	-1.379
その他ダミー	.165	.343	-.219*	-2.042
[開業した理由]				
仕事経験を活かせるダミー	.034	.275	-.016	-.476
趣味・特技を活かせるダミー	-.085	-.920	-.013	-.511
社会的意義があるダミー	.021	.174	-.057†	-1.733
勤務先から勧められたダミー	.074	.626	.019	.532
勤務先以外から勧められたダミー	.001	.006	.097**	3.043
事業の成長が見込めたダミー	.048	.379	.083*	2.240
資金の障害がクリアできたダミー	-.073	-.645	.045	1.405
やりがいのある事業だからダミー	-.079	-.466	.012	.307
自分の意思で運営できるダミー	.379*	2.165	.104*	2.078
自分のペースで運営できるダミー	-.261	-1.578	-.120*	-2.435
収入を増やしたいダミー	.159	1.367	.064†	1.957
より高齢まで働けるダミー	.041	.301	.033	.973
仕事以外に注力できるダミー	.120	1.059	.046	1.513
[知識・経験獲得の場]				
以前の勤務先の仕事経験ダミー	.178	.691	.068	.890
以前の勤務先の集合研修ダミー	.032	.073	-.003	-.028
民間教育機関ダミー	-.251	-.807	-.071	-.677
業界団体等の研修ダミー	-.391	-1.232	-.027	-.266
自学自習ダミー	.384†	1.738	-.096	-1.557
その他ダミー	.357	.915	-.082	-.688
<i>F</i>		1.460†		5.954**
自由度調整済み <i>R</i> ²		.088		.098
<i>n</i>		139		1361

注1. **, *, †は、それぞれ1%, 5%, 10%水準で有意なことを示す。

「開業した理由」に関しては、「勤務先以外から勧められて」や「事業の成長が見込めたから」「自分の意思で運営できる（から）」「収入を増やしたい（から）」という理由が、男性では正（+）で有意になっている項目である。ただし、「社会的意義がある（から）」と「自分のペースで運営できる（から）」は、負となっている。社会的意義という動機は、事業の状況を悪化させるのだろうか。なお、この変数は女性では有意ではないが正である。その女性で有意となっている開業理由は、男性でも有意となっていた「自分の意思で運営できる（から）」である。事業の中心となって主体的に運営したいと考えて開業することは、男女を問わず事業の成功要因の1つと言えよう。

「知識・経験獲得の場」に関しては、男性は有意となった変数はなく、女性のみ「自学自習」が正で有意となっている。女性は、管理職経験が少なく斯業経験も少なくなっていた。そのような環境にあっては、自学自習による能力開発が事業状況を良くする方策の1つであることが示唆される。

6節 まとめ

この章では、男性と女性を別個にし、それぞれを同一の枠組みで分析した。男性と女性の違いを明確にすることを意図したもので、対象としたのは開業者（開業継続者と非継続開業者）である。実施したのは、個別の変数によるクロス集計と、それらの変数を説明変数とし、従属変数を「（開業）事業の状態」とする多変量解析である。分析の結果とそれに関連する考察を列挙すると次のようになる。

- ・女性の計測結果は、あまり良好ではなかった。しかし変数の符号は、多くの変数で同じであったので、基本的には男女で同一のメカニズムが、「事業の状態」を良くするために機能していると考えることができた。
- ・女性は、管理職経験が少なく、斯業経験も少ないことが再確認された。このことから、開業以前の経験を活用した開業が女性は少ないと見ることができた。
- ・女性の知識や経験の獲得方法は、「自学自習」によることが多くなっていた。仕事を通じた経験が少ないことを補うための活動と見ることができた。
- ・男性は、勤務先以外から勧められて開業することもあることが確認された。仕事をベースにした他社も含む拡大した情報ネットワークが、開業に寄与しているように思えた。

これらのことから、斯業経験というその事業での経験の重要性とは別に、事業分野はともかくとした、「仕事経験」自体にも重要性があることに気づく。高齢期の事業とはいえ、それを開業し運営していく以上、何らかの事業における責任ある立場での就業経験が必要

であろう。男性の場合は、それ以前の就業で管理職以上の経験のある人が多く、責任ある立場での仕事経験がある人が多くなっていた。それが高齢期の事業に役立っているように思える。しかし女性には、そのような仕事経験がある人は少ないのが現状である。

その不足を補うために、女性が自学自習による能力開発を行っている姿が分析で窺うことができた。しかし、それで充分なのだろうか。そのような能力開発の機会と内容を、誰がどのように提供していくか、今後の課題であろう。